

### 北上市で社会知性フォーラム

# いわて国体へ高まる期待

## 指導者が意見交換



▲ いわて国体がもたらす効果について話し合ったパネルディスカッション

専修大学が持つ研究力の地域社会への発信を目的にした社会知性フォーラムが10月24日、岩手県北上市の日本現代詩歌文学館で開かれた。専修大学・専修大学北上高等学校主催、北上市共催。

「岩手国体がもたらすレガシー(遺産)」と題し、本学や北上市で活躍するスポーツ指導者が、来年開催の「2016希望郷いわて国体」の意義や期待する効果などについて意見を交わした。

フォーラムは専大の付属高校がある地域で毎年開催しており、北上市では2回目。専大北上高生やスポーツ関係者ら214人が参加した。矢野建一学長のあいさつに続き、小原善則北上市教委教育長が「国体に向けて

「おもてなしの心がレガシーになる」と強調。本正監督は、トップレベルの選手に触れるチャンスであると同時に、「地元のおよそを全国に発信し、県民に郷土愛が生まれるいい機会になる」と考察した。佐竹教授は「国体のレガシーとは、人財となる人を育ててくれるだろう」とまとめた。

専大北上高3年の八重樫愛美さんは「ボランティアに参加することで岩手を盛り上げることができると学んだ」、菊地哲平さんは「自分もおもてなしの心を持ちたい」と感想を述べた。

「おもてなしの心がレガシーになる」と強調。本正監督は、トップレベルの選手に触れるチャンスであると同時に、「地元のおよそを全国に発信し、県民に郷土愛が生まれるいい機会になる」と考察した。佐竹教授は「国体のレガシーとは、人財となる人を育ててくれるだろう」とまとめた。

専大北上高3年の八重樫愛美さんは「ボランティアに参加することで岩手を盛り上げることができると学んだ」、菊地哲平さんは「自分もおもてなしの心を持ちたい」と感想を述べた。

## ネット情報学部・体験授業

「応用演習(コンテンツデザイン)」(指導・栗芝正臣准教授)では、学生の企画を批評し合う発表会で率直に感想を表した。高校生たちは「3、4歳上の先輩と話せて新鮮だった」「意見がどんどん出るのさすが」「実際の授業を受けて専大が身近になった」と笑顔をみせた。



▲ プログラミングに挑戦(端末室で)

## 抜けるような青い空...頂上で専修大学のタオルを掲げる



「学生だけでヒマラヤの誰も登ったことのない山に挑戦しよう」。日本山岳会の創立100周年記念事業での呼びかけに、首都圏の大学山岳部員など男子学生6人が名乗り、皆の目には涙がにじんでいた。

「無事下山したときの達成感こそ登山の面白さ」——橋井さんらは10月23日帰国。再会した山岳部主将の前田翼さん(文4)から「たくましくなった。やり遂げた自信が顔に表れている」と肩をたたかると、はにかんだ笑顔をみせた。

# 山頂への足跡を目に焼きつけた

## ザニエII峰登頂の橋井駿さんら学生6人



「学生だけでヒマラヤの誰も登ったことのない山に挑戦しよう」。日本山岳会の創立100周年記念事業での呼びかけに、首都圏の大学山岳部員など男子学生6人が名乗り、皆の目には涙がにじんでいた。

「無事下山したときの達成感こそ登山の面白さ」——橋井さんらは10月23日帰国。再会した山岳部主将の前田翼さん(文4)から「たくましくなった。やり遂げた自信が顔に表れている」と肩をたたかると、はにかんだ笑顔をみせた。

「やったぞ」——10月4日午後零時5分(現地時間)、ネパール東部にそびえる未踏峰、ザニエII峰(6318m)・カンチエンジュンガ山群)の頂上に立った橋井駿さん(法3)は、5人の他大学の仲間たちと抱き合って初登頂を喜んだ。励まし合い、力を合わせて成し遂げた快挙。皆の目には涙がにじんでいた。

「学生だけでヒマラヤの誰も登ったことのない山に挑戦しよう」。日本山岳会の創立100周年記念事業での呼びかけに、首都圏の大学山岳部員など男子学生6人が名乗り、皆の目には涙がにじんでいた。

「無事下山したときの達成感こそ登山の面白さ」——橋井さんらは10月23日帰国。再会した山岳部主将の前田翼さん(文4)から「たくましくなった。やり遂げた自信が顔に表れている」と肩をたたかると、はにかんだ笑顔をみせた。